

2015.4.23

追手門学院大学副学長

福島 一 政

アサーティブプログラム・アサーティブ入試の取組について

1. 取組の概要

①目的・趣旨

本学は「分厚い中間層」が数多く入学してくる大学として、入学前教育や初年次教育、教員の授業方法の改善などにも精力的に取り組み成果も上げているが、それだけでは、そもそも学習意欲や学力が不足している学生を前向きにすることは困難である。

そこで、本学の「独立自彊、社会有為」の教育理念に則り、入試の前から、高校生一人ひとりと向き合い、大学で学ぶ意味、本人の将来、何を学ぶかなどについて話し合い、その生徒にあったアドバイスをし、その生徒が主体的に自らの進路を考え、決定することを促すことができるようにしたいと、この制度を開発した。いわば、「選抜型」入試から「育成型」入試への転換を図る取組である。

②アサーティブプログラム

・ガイダンスと個別面談

オープンキャンパスも含めて年 10 数回のガイダンスとその際の個別面談。

面談は、本学の専任職員が担当。

自分を知り、大学で何を学びたいかを問い、自ら気づくように促す（この面談は、本学への受験を促すことはせず、本人の将来を一緒に考えるというスタンスで行っている）。

・MANABOSS(マナボス)システム

基礎学力の確認と向上、計画的学習を習慣づけると同時に、追手門学院大学バカロレアで、多様な観点から考察する力を育て、自分の意見を述べる力や他者の意見を受容する姿勢を養おうとするシステム。

・アサーティブノート

このプログラムの結果を記録し、振り返ることで自己成長を促す。

自分自身を主語にして記述する。

③アサーティブ入試

・1次試験（グループディスカッション）

1 グループ 5～6 名で約 30 分の議論。

主体性や協調性、論理性等を評価して可否を判定（職員 3 名による判定）。

・2次試験（基礎学力適性検査と個人面接）

基礎学力適性検査は、MANABOSS 搭載問題と同様の形式で出題（60 分 40 問で国語と数学）。

面接は、教員と職員がペアとなって、志望理由、学問に対する意欲や知的関心のレベル等进行评估。

双方を総合的に評価して合否を判定

④取り組みを支える要素

- ・アサーティブオフィサー(職員)
- ・職員による面談(54名)と入試合否判定への参加

2. 取組に関する評価や苦勞・課題等

①前年度の結果

面談者数(高校3年生の実数)	185名
1次試験志願者数	91名
1次試験合格者数	80名
2次試験合格者数	53名
入学者数	52名
面談者のうち入学した者の数	100名(アサーティブ入試で入学した者を含むアサーティブプログラムを受けたものの数)

②報道・講演・他大学からの調査

テレビ(毎日放送)

新聞(毎日新聞・日本経済新聞・大学新聞・日経産業新聞・教育家庭新聞)

雑誌(アエラ・週刊朝日)

講演(大阪府高校進路指導研究会・毎日大学フォーラム・高校教員向けフォーラム・大阪府立H高校PTA総会)

他大学からの訪問調査 5大学

③苦勞話

一昨年の、本取組開発・策定時のこと。

大学教育再生加速プログラム予算の減額。

④今後の計画・課題等

アサーティブ入試で入学した学生のヒアリングとサポート。

MANABOSS搭載の問題作成(英語・地理歴史など)。

今年度からAO入試全廃・アサーティブ入試を年2回実施。

アサーティブ研究センター(仮称)設置の検討(早ければ6月)。

新たな高大接続システムの開発。

以上